

保健医療計画における課題

求められる医療機能

国立循環器病研究センター・吹田市民病院移転に際して

大阪府吹田保健所

が ん

年齢調整死亡率

(平成19-21年)

		全部 位	食 道	胃	大腸	肝 臓	胆 嚢	膵	気管 支	気管 支 肺	乳 房	子 宮	白血 病
男	豊能	198.6	10.8	29.3	21.1	24.6	7.7	13.7		46.8	-	-	4.7
	三島	193.3	9.7	31.3	21.2	25.0	6.8	13.5		45.4	-	-	4.8
	府	214.1	10.8	34.1	23.0	29.5	7.1	13.2		52.0	-	-	4.8
女	豊能	101.0	1.5	12.0	12.9	8.5	4.4	7.7		13.5	13.2	6.1	2.0
	三島	98.3	1.5	12.4	12.9	8.2	4.4	8.2		12.0	11.5	4.1	2.7
	府	104.5	1.8	12.8	13.3	9.8	4.7	8.1		14.6	12.1	5.2	2.5

検診受診率

(平成22年度)

	胃	大腸	肺	乳	子宮
池田	2.9	9.9	7.7	10.9	20.9
箕面	30.9	42.6	46.3	29.1	44
豊能	6.7	6.7	5.7	21.3	14.3
能勢	15.1	16.4	28.8	20.1	12.9
豊中	5.5	18.6	3.3	13	18.9
吹田	2.4	18.5	14.3	21.5	22.4
摂津	9.5	10.7	10.8	14.3	17.6
茨木	4.3	23.2	23.3	16.6	22.3
高槻	5.8	17.6	27.6	18.4	27.4
島本	8.8	18.6	25.3	13	25.9
大阪府	5.4	11	7.9	15.8	21.7

地域がん診療連携拠点病院	豊能	市立豊中病院、大阪大学医学部附属病院
	三島	大阪医科大学附属病院
大阪府がん診療拠点病院	豊能	市立池田病院、市立吹田市民病院、箕面市立病院、済生会吹田病院、済生会千里病院、刀根山病院
	三島	愛仁会高槻病院、高槻赤十字病院、北摂総合病院、彩都友誼会病院

今後の取り組み

豊能	終末期ケアを含め在宅療養の患者が今後ますます増加。そのため、連携できる診療所をさらに増やし、歯科、薬局、介護等福祉サービスも含めた連携を深め、地域医療、在宅緩和ケアシステムの充実を推進していく必要。
三島	がん治療を在宅で行うために専門病院と連携する医療機関が必要。がん化学療法による副作用や、栄養管理等、患者の在宅管理のために、かかりつけ医とともに訪問看護あるいは訪問介護等を充実させる必要。がん診療拠点病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会の協力の下、がんに関する在宅医療の充実を図る必要。

脳卒中

年齢調整死亡率 (平成19~21年)

		脳卒中
男	豊能	36.5
	三島	37.8
	府	48.8
女	豊能	20.7
	三島	20.5
	府	25.6

特定健診 平成22年度

	特定検診			特定保健指導		
	対象者数	受診者数	受診率(%)	対象者数	終了者数	利用率(%)
池田	17155	7338	42.8	804	8	1
箕面	21599	7944	36.8	887	182	20.5
豊能	4543	2070	45.6	347	20	5.8
能勢	2447	946	38.7	96	17	17.7
豊中	68542	21390	31.2	2920	268	9.2
吹田	56655	24003	42.4	3191	249	7.8
摂津	15184	4376	28.8	579	60	10.1
茨木	42636	11960	28.1	1391	276	19.8
高槻	63774	24937	39.1	3012	743	24.7
島本	4897	1758	35.9	168	25	14.9
大阪府	1,576,390	419,885	26.6	54833	6802	12.4

脳卒中 今後の取り組み

豊能	<p>圏域内7施設が脳卒中医療機能の拡充予定。地域リハビリテーション支援センター（関西リハビリテーション病院）が事務局となり、豊能圏域地域リハビリテーション病院連絡会や維持期検討部会を定期的に開催し、維持期での連携の充実に努めている。「脳卒中ノート」がさらに使いやすく役立つノートとなるよう、「脳卒中ノート」の使用1年後の患者を対象にアンケートを実施し、改定を行い普及を一層進めていくこととしている。また、患者を中心に急性期病院、回復期病院、療養型病院や老人保健施設等の医療機関の連携だけでなく、診療所、薬局、訪問看護ステーションなど様々な専門職の連携を充実させ、患者を中心に再発予防や情報の共有が出来ることを目指していく。特に在宅生活での連携については、地域リハビリテーション支援センター（関西リハビリテーション病院）が、ケアマネジャー等の維持期スタッフの連携体制の構築を進めており、地域の様々なネットワーク会議と連動できるよう調整に努める。歯科については、急性期病院に入院中からの口腔ケアの早期介入が可能となるよう、在宅歯科診療と医療機関との連携をより深めることが必要。</p>
三島	<p>17施設のうち7施設が拡充予定。集中治療室（SCU）は圏内にはないが、必要な患者は国立循環器病研究センターに搬送され圏域をこえた対応あり。地域リハビリテーション支援センター（愛仁会リハビリテーション病院）が事務局となり、三島圏域地域リハビリテーション病院連絡会を定期的に開催。但し、重症患者のリハビリについては現時点でも病院間の連携は必ずしも十分ではなく、急性期病院から回復期・維持期への円滑な移行が課題。嚥下障害時の誤嚥性肺炎防止のためリハビリ段階での口腔ケアについても充実が求められており、歯科医療機関との連携体制の強化が必要。パスの導入についてはかなりの理解が得られているものの、実際にパスが作成され、在宅療養の推進に向けた連携に役立っている医療機関数は患者数の増加に比してまだ少ない。申請からパス導入までの病院内での動きがわかるフローチャートや継続的な勉強会、研修会、情報交換の場など充実させる。さらに病院内だけでなく、かかりつけ医との連携、患者自身の理解が重要であり、地域全体でのパスの理解を継続的に進めていく必要がある。また、様式の検討や混在する近隣医療圏のパスとの情報整理も課題である。現状では、回復期から維持期への連携は課題であるが、これまで地域リハビリテーション支援センターとして中核的な役目を担ってきた愛仁会リハビリテーション病院を中心に在宅療養を志向した一層の連携体制の確立を期待。</p>

心筋梗塞

年齢調整死亡率 (平成19~21年)

豊能	男	10.7
	女	4.7
	計	7.4
三島	男	17.9
	女	7.5
	計	12
大阪府	男	18.9
	女	7.9
	計	12.9

心筋梗塞 今後の取り組み

豊能	<p>地域連携クリティカルパスは導入率がかなり低く、パスを発行する急性期病院への働きかけ促進と地域の診療所の協力について研修会等の場で情報提供していく必要あり。また医療機関及び住民に対し急性心筋梗塞の再発防止とQOLの向上をめざし、認知度の低い心臓リハビリテーションの普及啓発が重要。外来心臓リハビリテーションを組み込んだ急性心筋梗塞地域連携クリティカルパスの環境は確実に整ってきているが、さらに外来で手軽に包括的な心臓リハビリテーションを受けられる施設の増設が必要。</p>
三島	<p>パスの導入については、運用実績が減少しており、活用への課題がある。病・病連携は進んできているが、病診連携は双方の不安感からなかなか進みにくい現状。地域に受け入れられるパスとして改善していく努力が必要。</p>

糖 尿 病

糖尿病治療実施医療 機関の医療機能 (平成22年度)

		教育入院	網膜光凝固	硝子体手術	人工透析	地域連携クリティカルパス参加
豊能	病院	18	10	2	13	21
	うち吹田	9	5	2	5	10
	診療所	2	23	1	8	?
	うち吹田	1	6	0	?	?
三島	病院	11	11	3	14	29
	うち茨木	3	4	0	4	11
	うち攝津	0	0	0	1	4
	診療所	1	17	0	10	?
	うち茨木	0	8	0	0	?
	うち攝津	1	4	0	1	?

今後の取り組み

豊能	連携手帳の普及・活用とともに地域連携クリティカルパスの評価について評価指標の検討、および効果的なシステムの構築に向けて要検討。市町の特定健診等との連携により、受診勧奨を含め早期介入による糖尿病の予防や悪化の防止についての検討、および連携システムの構築が必要。そのため医療機関をはじめとした糖尿病予防、治療に関する関係機関の連携の強化を図る。
三島	特定健診において、空腹時血糖、HbA1cの結果が基準値から外れる者の割合は年々増え、糖尿病予備軍が増加。DM診療体制について病院33施設のうち、7施設が拡充予定（専門外来・教育入院などソフト面の充実）。一旦透析を受けはじめると身体的、精神的な負担は大きく、QOLの低下を余儀なくされることから透析導入をできるだけ遅らせて透析患者を減らすことをめざすべきであり、この点についての取り組みが必要。

救 急 医 療

初期救急体制 (小児救急を除く)

(平成22年度)

	医療機関	診療科	年間患者数
豊能	池田市立休日急病診療所	内科	1353
		歯科	284
	箕面市立病院	内科	709
		歯科	173
	豊中市医療保健センター診療所	内科	1189
		歯科	384
	豊中市立庄内保健センター	内科	573
		歯科	286
吹田市立休日急病診療所	内科	1929	
	外科	880	
三島	高槻島本夜間休日応急診療所	歯科	460
		内科	7648
		外科	3735
	茨木市保健医療センター附属急病診療所	歯科	425
		内科	4519
		歯科	406

2次・3次救急体制

		固定・通年	輪番・非通年
豊能	市立池田病院	内・外	小
	巽病院	内・整	
	箕面市立病院	内・外	小
	さわ病院		精
	小曾根病院		精
	市立豊中病院	内・外	小
	東豊中渡辺病院	内	
	豊中渡辺病院	内・外・整	
	大阪脳神経外科病院	脳	
	上田病院	内・外	
	小西病院	外	
	豊中若葉会病院	内・整	
	榎坂病院		精
	済生会吹田病院	内・外・ 整・産婦・ 循	小
	国立循環器病研究センター	循・神・産	
	市立吹田市民病院	内・外・ 整・脳	小
	大和病院	内	
済生会千里病院	内・外		
大阪大学医学部附属 病院高度救命救急センター	3次救急		
済生会千里病院千里 救命救急センター	3次救急		

		固定・通年	輪番・非通年
三島	愛仁会高槻病院	内・外・脳・ 整・循・産婦	
	高槻赤十字病院	内・外・整・循	
	みどりが丘病院	内・外・脳・ 整・循	
	第一東和会病院	内・外・脳・整	
	新生病院	内・外・脳・整	
	北摂総合病院	内・外・整・循	
	うえだ下田部病院	外・整	
	大阪医科大学付属病院	脳・循	
	オレンジホスピタル		精
	光愛病院		精
	新阿武山病院		精
	田中病院	内	
	河合病院	外	
	済生会茨木病院	内・整	
	北大阪警察病院		脳
	博愛茨木病院	内・整	
	友紘会総合病院	内・外	
	谷川記念病院	消外	
	茨木病院		精
	藍野花園病院		精
千里丘中央病院	内		
昭和病院	外		
摂津ひかり病院	内		
摂津医誠会病院		内・整	
三島救命救急センター	3次救急		

今後の取り組み

豊能医療圏

阪大医学部附属病院高度救命救急センターには大阪府ドクターヘリ、済生会千里病院千里救命救急センターにはドクターカーの配備。国立循環器病研究センターは大阪府医師会認定の三次救急医療機関として重篤循環器疾患救急患者を受け入れ。精神疾患、自損自傷、飲酒、認知症、薬物中毒等の搬送の場合には、受け皿の確保は大きな課題。また、高齢者の救急患者や高齢者施設からの救急搬送の増加による2次・3次救急医療機関の患者の転院先の調整が困難。それらの解決に向けて精神科救急医療システムの有効な活用や急性期医療機関と慢性期医療機関、精神科病院とのさらなる連携が重要。圏域内搬送は85%

三島医療圏

三島救命救急センターにドクターカー配備。圏域内搬送は88%だが年々減少。特に摂津市は圏域外搬送の比率が高い。軽症患者の二次救急医療機関での受診や、安易な救急搬送依頼の増加、高槻市内医療機関への患者の集中などの課題に対応する必要あり。まずは小児初期救急医療体制の広域化・集約化の早急な取り組み、ついで総合的な救急医療システムの構築を目指す。

周産期医療

周産期統計（平成22年）

	乳児死亡率	新生児死亡率	周産期死亡率	低出生体重児出生率
豊能	1.6	0.6	3.1	9
三島	2.6	1.6	4.4	10.4
大阪府	2.1	1	4	9.7

(出生千対) (出生千対) (出産千対) (出生百対)

乳幼児健診受診率 （平成22年）

	3～4ヶ月	1歳6ヶ月	3歳
池田市	98.5	96.9	93.5
箕面市	98	94.4	86.9
豊能町	100	100	92.5
能勢町	97.8	95.6	89.1
豊中市	94.4	93.4	84.9
吹田市	97.6	97	87.3
豊能医療圏	96.8	95.2	87
茨木市	100	96.6	93.7
摂津市	97	96.4	83.5
島本町	98.9	95.5	95.4
高槻市	97.6	97.9	93.7
三島医療圏	98.5	97.1	92.6
大阪府	96.8	94.6	87.5

(%)

圏域内分娩対応状況

(平成22年度)

	出生数 (A)	分娩件数 (B)	(B)/(A) (%)
豊能医療圏	8665	9773	112.8
三島医療圏	6996	6458	92.3

*里帰り分娩の要素を考慮する必要あり

今後の取り組み

豊能医療圏

現状では圏域内の分娩施設の数は充足していると推測される。今後は、病院の機能分担や診療所との連携方法、時期などが課題。虐待予防という視点からは「望まぬ妊娠対策」など中長期的な視点で、周産期から医療、保健、教育、福祉の連携で虐待の未然防止対策を進めていく必要あり。

三島医療圏

低出生体重児の出生率が府内平均より高く、また、総じて死亡率に関しても府内平均よりも高い。妊婦健康診査受診率把握が十分でなく未受診ケースへの対応が課題。(圏域内分娩対応は92%であるがそれだけをもって施設不足といえるかどうかは検討されていない)

小児医療

(小児救急含む)

小児科病床 (平成23年)

		病 床 数		PICU
			うち新生児専用	
豊能	市立池田病院	10	2	0
	箕面市立病院	30	4	0
	市立豊中病院	28	0	0
	東豊中渡辺病院	2	0	0
	済生会吹田病院	20	0	6
	国立循環器病研究センター	67	0	4
	大阪大学医学部附属病院	55	8	0
	済生会千里病院	10	0	0
	市立吹田市民病院	42	0	0
	計	264	14	10
三島	大阪医科大学附属病院	58	21	0
	北摂総合病院	5	0	0
	高槻赤十字病院	11	6	0
	三島救命救急センター	1	0	0
	愛仁会リハビリテーション病院	20	0	0
	愛仁会高槻病院	104	51	0
	田中病院	1	1	0
	済生会茨木病院	31	3	0
	計	231	82	0

小児救急医療体制 (平成22年度)

	医療機関	年間患者数
豊能	池田市立休日急病診療所	1223
	豊能広域こども急病センター	30484
	豊中市医療保健センター診療所	1077
	豊中市立庄内保健センター	1018
	吹田市立休日急病診療所	1352
三島	高槻島本夜間休日応急診療所	9532
	茨木市保健医療センター付属急病診療所	7517
	摂津市立休日小児急病診療所	709

今後の取り組み

豊能医療圏	小児集中治療室（PICU）が国立循環器病研究センター（4床）、済生会吹田病院（6床）に整備されている（高度医療には対応しているが、全体として小児病床は漸減しており、入院の受け皿が脆弱になりつつあるという指摘もあり要検討。）
三島医療圏	高度な医療を必要とする小児が数多く存在。医学の進歩により、超低出生体重児についても生存が可能となっているものの、退院ののちも重い障がいを残す場合や、継続的な高度医療を必要とする場合が増加しており、そのようなニーズに地域で対応できる体制づくりが必要。いざという時のバックアップ体制が整っていないことから在宅の高度医療児への診療に積極的に取り組んでいる医師はまだ少なく、専門病院と地域のかかりつけ医との連携体制のシステム化が課題。

在宅医療機能の現状

	豊 能		三 島		
	圏域	吹田	圏域	茨木	摂津
在宅療養支援病院	3	0	2	1	0
一般診療所	954	305	567	223	53
在宅療養支援診療所	176	51 (16. 7)	142	47 (21. 1)	12 (22. 6)
一般歯科診療所	564	180	739	144	39
在宅療養支援歯科診療所	52	28 (35)	24	11 (7. 6)	3 (7. 7)
在宅患者訪問薬剤指導薬局	317	104	159	69	18
訪問看護ステーション数	68	26	61	24	8
地域包括支援センター数	23	6	20	6	1

今後の対応

豊能医療圏

病・診、診・診連携における主・副主治医のコーディネートの決定に関する問題、副主治医に対するコストの問題、訪問診療を専門とした医療機関との連携、特定保険医療材料の在庫調整、医療的ケアの必要な障がい者のショートステイの問題、在宅難病患者のレスパイト病院の確保、東日本大震災を教訓とした高度医療機器装着患者の医療環境整備などが今後の課題である

三島医療圏

公的医療機関、社会医療法人病院、地域医療支援病院は、いずれもこれまで地域医療に多角的に貢献しているが、今後の在宅医療の広がりを考えればこれら社会的役割の大きな病院がさらに地域の病院・診療所との連携を強化し、在宅医療を支援することが期待される